



「TGC FES YAMANASHI 2023」における、 カーボンオフセットの取り組み

株式会社山梨中央銀行 地方創生推進部 部長 渡邊 正雄

2024年12月18日

山梨中央銀行



名称：株式会社山梨中央銀行

所在：山梨県甲府市丸の内一丁目20番8号

創立：1941年12月1日

資本金：154億円

総資産：4兆3,524億円

総預金残高：3兆6,417億円

貸出金残高：2兆5,203億円

従業員数：1,609人

営業店舗数：本・支店89

(うちインターネット支店1)

出張所10

(うちライフスクエア8)

2024年3月31日現在



総面積

4,465.27km²

(2023年10月1日現在)



総人口

795,544人

(2023年10月1日現在)



日本ワイン生産量

3,466kℓ

(2022年度)

全国
1位

ブドウ生産量

40,800t(年間)

(2022年)

全国
1位

モモ生産量

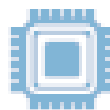
35,700t(年間)

(2022年)

全国
1位貴金属・宝石製装身具
(ジュエリー)製品
製造業出荷額

316億円

(2021年)

全国
1位

半導体・IC測定器

出荷額

667億円

(2020年)

全国
3位

ロボット製造業

出荷額

4,535億円

(2021年)

全国
1位

出典:山梨県のあらし2024(山梨県)



山梨のワイン

- ・日本ワイン製成数量全国1位(※)
- ・国内ワイナリー数全国1位



絹織物



日本酒

「山梨」日本酒表示指定(国税庁)



ニット



ミネラルウォーター

出荷額全国1位



印伝



果物

葡萄・桃・すもも収穫量全国1位



和紙



貴金属・宝石製装身具製品

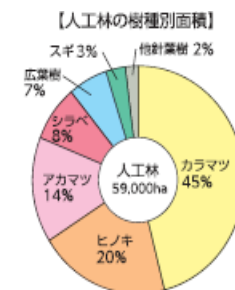
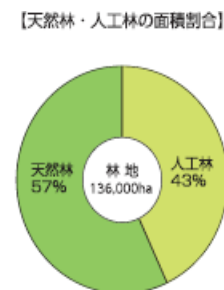
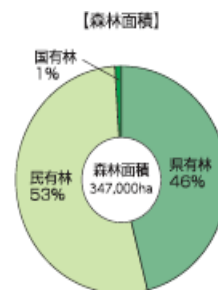
製造業事業所数全国1位

(※) 日本ワイン：国産ぶどうのみを原料とし、日本国内で製造された果実酒

【出典】：山梨県HP、経済構造実態調査 等

●県土の約80%が森林

山梨県は県土の78%を森林が占める森林県で、県有林はこのうち46%、15万8千ヘクタールで実に県土の35%を占めています。また早くから持続可能な林業経営に力を入れており、2003年には賃借地を除くすべての県有林が国際的な森林認証制度である「FSC®森林管理認証」を取得しました。

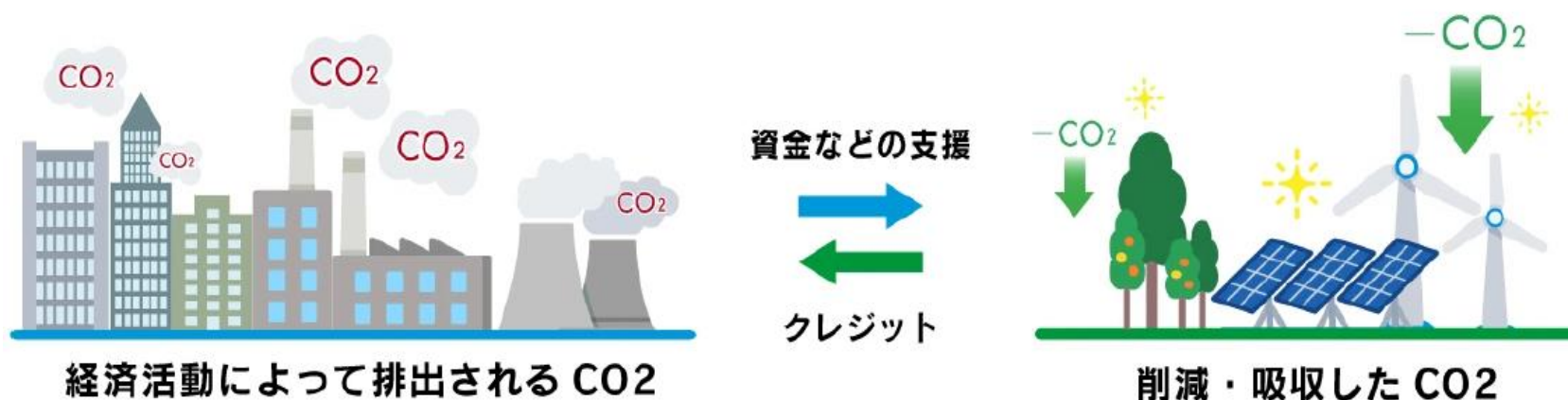


【出典】：山梨県林政部県有林課発行
「山梨の県有林」より

●山梨県有林により創出されたカーボン・クレジット

山梨県は「やまなし県有林活用温暖化対策プロジェクト」により、オフセット・クレジット（J-VER）を発行し、これをカーボン・オフセットに取り組んでいる事業者には販売しています。販売により得た資金は県有林の森林整備に活用されます。

カーボンオフセットの仕組み



● TGC FES YAMANASHI 2023の概要

TGC（東京ガールズコレクション）は、日本最大級のファッションイベントで2005年より開催されています。

山梨県での開催は2022年に続いて2回目であり、来場者数延べ約5,560人、配信視聴者数延べ約482,000人、合計で487,560人を記録しました。

開催目的



メインステージ（河口湖ステラシアター）

| | |
|--------------|-----------------------|
| ①冠協賛 | イベント全般に関与 |
| ②ステージ協賛 | 7分間のオリジナルステージ実施 |
| ③ブース協賛 | 自社商品等のPRブースを設置 |
| ④CM協賛（会場/配信） | 自社商品等のPR動画をステージの合間に放映 |
| ⑤チケット協賛 | イベントチケットを購入 |

グリーンエリア（河口湖総合公園）

| | |
|------------|----------------|
| ⑥プレスメント協賛 | 自社商品等の企画展を設置 |
| ⑦ブース協賛（PR） | 自社商品等のPRブースを設置 |
| ⑧ブース協賛（飲食） | 飲食物の販売ブースを設置 |

新設

| | |
|---------------|-----------------|
| ⑨カーボン・オフセット協賛 | イベントをカーボン・オフセット |
|---------------|-----------------|

●山梨中央銀行の協力

山梨県および（株）W TOKYOが共催する

「TGC FES YAMANASHI 2023」において、

チケット協賛に加え、当行からの提案で新設された**カーボン・オフセット協賛**でイベント開催を支援しました。

また、ブース協賛・チケット協賛に協力していただける地元企業の募集を行い、**全11社**の紹介をしました。

なぜ「カーボン・オフセット」？

- ◆ 環境に配慮した先進的な取り組みで話題性＆イメージUP
- ◆ 山梨県主催のイベントで山梨県の豊かな森林資源をPRできる
- ◆ 「エシカル消費」への興味関心が高い若年層をターゲットとした施策



●カーボン・オフセット協賛

「TGC FES YAMANASHI 2023」において排出される温室効果ガスの推定排出量を算定し、「山梨県有林オフセット・クレジット (J-VER)」により削減、カーボン・オフセットイベントとして開催するための協賛を山梨中央銀行が行いました。

山梨中央銀、排出権取引に注力 県有林の吸収量を購入

2023.07.19 04:40

山梨中央銀行は、温室効果ガス（GHG）の削減・吸収量を買取り、排出量を相殺するカーボン・オフセットの取り組みに力を入れている。銀行業務のほかコンサートや祭り、スポーツイベントなどでのGHG排出に対して「山梨県有林オフセット・クレジット (J-VER)」の購入や売買マッチングを進める。10月にはカーボン・オフセットイベントの開催を支援する。地域のGHG排出量を削減し、脱炭素化に対する意識向上につなげる。

同行は10月21日に「TGC FES YAMANASHI 2023」に協賛企業として参加する。全国的なファッションイベント「東京ガールズコレクション」を運営するW TOKYO（東京都）と、山梨県が河口湖ステラシアターで開くもの。初開催だった昨年は、イベントチケットを購入するチケット協賛により貢献した。

今回は運営者や出演者、参加者の移動によって排出される二酸化炭素（CO2）や会場のエネルギー使用によるCO2の排出分、合計約70トン分のJ-VERを買取る形でも協賛。W TOKYOが開催する初のカーボン・オフセットイベントとなり、環境に配慮したイベントとして若年層を中心に認知拡大や集客増を期待する。地方創生推進部は「これを機に地元のお祭りなど地域のイベント主催者に向けた積極的な提案につながれば」と話す。

【出典】：2023年7月19日発行
ニッキンオンライン



イベントのCO₂ 排出量 = ① + ② + ③ + ④

- ① イベント運営者の移動によるCO₂ 排出量（事前準備含む）
- ② イベント出演者の移動によるCO₂ 排出量
- ③ イベント参加者の移動によるCO₂ 排出量
- ④ イベント会場のエネルギー（電気）使用によるCO₂ 排出量



TGC FES YAMANASHI 2023では...

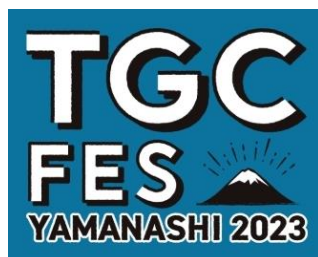
約69.7 t — J-VERの購入代金
70万円分 =

(@ 1 t/1 万円)



※参考資料1参照

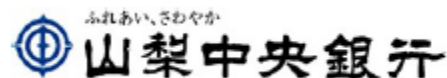
**CO₂排出量実質ゼロの
カーボン・オフセットイベントとして開催**



「TGC FES YAMANASHI」で排出されるCO₂をオフセットし、W TOKYOが開催するイベントとしては初となる、環境に配慮したイベントとして認知拡大を図る



- J-VERの販路拡大
- 山梨県のCO₂排出量削減に寄与



- 地域の脱炭素化支援
- 同種イベントへのJ-VERマッチングによる役務収益増強



- SDGsを重視する当社のレギュレーションにマッチ
- イベントの社会的な信用度向上

**地球環境問題等に関心があり、エシカル消費を好む若年層にとって
なお一層付加価値の高いイベントとなる**

※参考資料2 参照

TGC フェス 山梨が2年連続開催決定！初のカーボン・オフセットを採用。環境問題に積極的に取り組んでいるトラウデン直美が記者発表会に登壇！「TGCに参加するだけで脱炭素に携われる素敵な取り組み」

テーマは『Treasure Box -crossover-』。世界遺産登録10周年を迎えた富士山の麓において開催！昨年よりも規模を拡大しコンテンツを展開。



今回開催が決定したTGC フェス 山梨 2023では、排出される温室効果ガスの排出量を「やまなし県有林オフセット・クレジット（J-VER）」により削減する、**カーボン・オフセット（※）イベント**として開催いたします。TGCとしてカーボン・オフセットを採用するのはこれが初めてとなります。本取り組みによるJ-VERの購入金は、山梨県の誇る豊かな自然環境の保全や、生物多様性の確保に配慮した持続可能な森林経営に活用されます。記者発表会に登壇した、トラウデン直美は、自身も環境問題に積極的に取り組んでいることから「とても素晴らしい取り組み。今、世界的にも脱炭素の流れなので、日本もそれに追いつこう、頑張ろうとしている大事なところ。特に、TGCのようなエンタメのイベントでこういった取り組みは少ないので本当に嬉しいです。TGCは初期の段階から、SDGsや社会問題に取り組んでいる。環境問題は、分かっているけど何をしたらいいのかわからない人も多い。今回はTGCに参加するだけで脱炭素の取り組みに携われるので、期待しています。」と語りました。さらに、「TGCはトレンドだけじゃなく、SDGsや世界の情報など、色々なことを知れる場所。私自身も参加しながら様々な情報をキャッチさせてもらっています。また、山梨の会場はすり鉢状になっていて、他の会場よりお客さんとの距離が近いです。まずは私が全力で楽しみたいと思います！」と、TGCの魅力や、イベントへの意気込みを語りました。

（※）カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO2等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方。

【出典】：2023年7月21日PR TIMES
W TOKYOによるプレスリリース

Appendix

(参考資料 1) 本件CO₂排出量の測定方法

(計算式)

イベントのCO₂排出量 = ① + ② + ③ + ④

- ① イベント運営者の移動によるCO₂排出量（事前準備含む）
- ② イベント出演者の移動によるCO₂排出量
- ③ イベント参加者の移動によるCO₂排出量
- ④ イベント会場のエネルギー（電気）使用によるCO₂排出量

(本件)

イベントのCO₂排出量 = 69.7 t

前提条件： イベント運営は50人が事前準備および当日の対応（片付け含む）を各1日行う

： イベント出演者は50人が当日参加する

： イベント参加者のうち県内来場者は2人1組で甲府駅から車でイベント会場まで移動する

① 50人×2往復×東京から往復（228.8km×0.019kgCO₂）

② 50人×東京から往復（228.8km×0.019kgCO₂）

③ （2,520組×往復76km×0.147kgCO₂） + （48人×仙台から往復932.4km×0.019kgCO₂）

+ （1,695人×東京から往復228.8km×0.019kgCO₂） + （430人×名古屋から往復881.4km×0.019kgCO₂）

+ （692人×新大阪から往復1254.6km×0.019kgCO₂） + （48人×岡山から往復1615.2km×0.019kgCO₂）

+ （48人×博多から往復2499.2km×0.019kgCO₂）

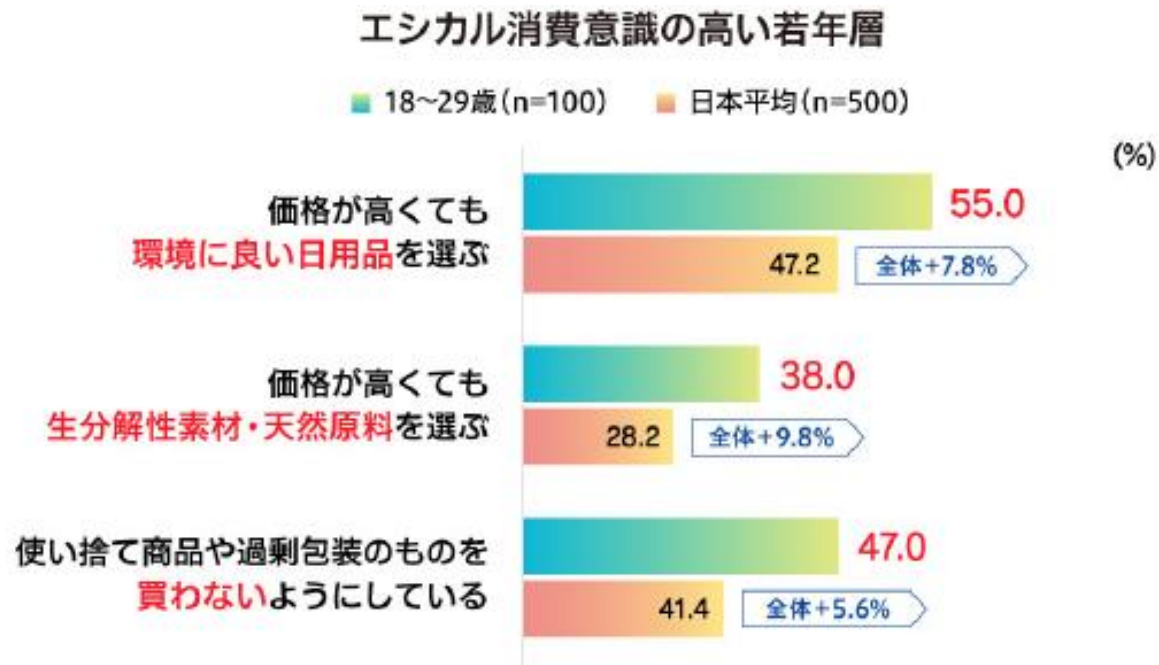
④ イベント会場のエネルギー（電気）使用によるCO₂排出量（6,000kWh×0.867kgCO₂）

※ 河口湖ステラシアターを1日利用した場合の電力使用量4,000kWh（河口湖ステラシアター確認済））

本イベントでは、当日1日および事前準備半日の1.5日分の利用をするものとして算出

(参考資料 2) 若年層の消費意識

- 若年層は、エシカル消費（消費者それぞれが社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと）への興味関心が高い



【出典】：（株）電通、電通総研が実施した「サステナブル・ライフスタイル意識調査2021」